



ろうさい病院 つうしん

発行所: 中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6
<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

TEL: 052-652-5511
FAX: 052-653-3533

「医療安全を担当いたします。」



副院長 南木 道生

本年4月より副院長に就任いたしました。当院の病診連携を立ち上げた際には近隣の先生方の診療所を訪問させていただきましたが、多くの温かい励ましをいただいた事を思い出します。

その後、多くの先生方に病診連携に加わっていただき、お蔭様で当院の紹介率、逆紹介率も飛躍的に増えて地域医療支援病院の施設基準の承認を得る事ができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さてこの度、私は医療安全を担当する事になりました。医療安全の活動を通じて、先生方から紹介された患者さんへ、よりよい医療の提供に努めたいと存じます。至らない処は多々あると思いますが、先生方から紹介された患者さんや当院から逆紹介させていただいた患者さんか

らのクレームなどありましたら、忌憚のないご意見をお聞かせください。往々にして患者さんは面と向かってご不満を吐露されません。先生方からご意見をいただきましたなら、当院をよりよくする貴重な機会として改善に努めていきたいと考えております。医療安全にこれだけでよいというゴールはありませんが、先生方に信頼して活用していただける病院を目指して微力ながら尽力する所存です。また当院の目下の目標である総合入院体制加算の施設基準の取得におきましても、より緊密な病診連携が必要になると思います。

今後ともご支援を賜りますようお願いすると共に、先生方のご健勝と益々のご繁栄をお祈りしてご挨拶いたします。

「超高齢化社会の地域連携」

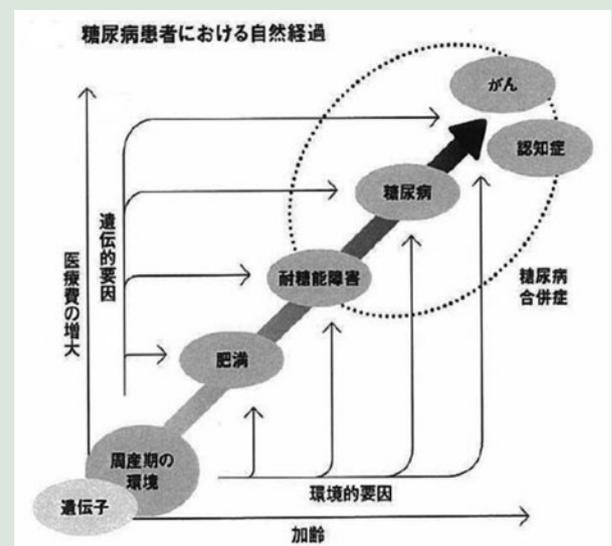
副院長 河村 孝彦



3副院長の退職にともない4月から副院長として新たな業務を担当することになりました。私は長年、健診センター、予防医療センターで疾病の予知、予防を手掛けてきました。また専門であります糖尿病診療も基本は糖尿病を作らない(一次予防)、糖尿病性合併症を作らない(二次予防)という予防のスタンスに変わりはありません。しかし、今後は病院運営など先生方と病診連携を通じてより密接にお付き合いできればと思っております。

さて今回、このようなテーマにしたのは、我が国では医療の進歩や疾病の早期発見、処置によって今や超高齢化社会に突入しようとしており、高齢者のQOLやADLの低下を予防することは喫緊の課題とされているからです。実際に平均寿命は年々増加してきましたが、逆に健康寿命は低下していると報告されています。健康でない高齢者の増加は労働人口が減っていく現状において、医療費の増大ばかりか介護者への精神的負担は計り知れないものがあります。特に認知症は深刻な問題です。糖尿病など生活習慣病は心血管イベントの原因であり、私はイベントを起こさないようにと日々の診療を行ってき

ました。しかし、残念なことに高齢化とともにADLが低下したり、認知症になったりする患者さんが増えているのも事実です。そこで今後は急性疾患ばかりでなく地域での超高齢化対策も先生方と我々中核病院とが一体となって進めていく必要があると思います。図は昨年 J Diabetes Invest 3:413-423 に掲載された「糖尿病と認知症」の review の中で用いた糖尿病の自然経過です。糖尿病の増加は未だ歯止めがかからず、イベントそして最終的には癌や認知症になるリスクの高い疾患です。ここでは糖尿病を例にとりましたが、夫々の段階で先生方と連携することがより必要になると思われますので今後ともよろしくお願い申し上げます。



がん診療拠点病院として

外科部長 坂口 憲史



日本における死因の第一位は、昭和56年以降「悪性新生物」です。平成21年には全死亡者に占める割合は30.1%となり、全死亡者のおよそ3人に1人は悪性新生物で死亡したことになります。政府はがん対策のために平成18年に「がん対策基本法」を制定しました。そして、「がん対策基本法」に基づいて、がん対策の総合的かつ計画的な推進を図るため、がん対策の基本的方向を定める「がん対策推進基本計画」を策定しました。こうした動きの中で、全国どこに住んでいても質の高いがん医療を受けられるように、がん医療の内容、医療従事者、設備、情報提供・相談体制など一定の基準を満たした病院を厚生労働大臣が指定したのが、「がん診療連携拠点病院」です。愛知県には15施設あります。また、愛知県におけるがん診療の充実を図るために、厚生労働大臣指定と同等の機能を有する病院を、愛知県知事が指定した病院が、「がん診療拠点病院」です。県内に8施設あり、中部労災病院は平成23年4月に愛知県の「がん診療拠点病院」に指定されました。

中部労災病院は、がんの治療でも質の高い医療を目指して診療をしています。その取り組み

として、放射線治療、化学療法、カンサーボード、緩和ケア、がん患者のリハビリテーション、がんに対する愛知県統一の地域連携クリニカルパスの運用に力を入れています。

放射線治療では、本年3月に放射線治療機器を最新の機種に更新して治療を行っています。質の高いがん治療を行うために、定期的にカンサーボードを開催し、多職種、多診療科で症例検討を行っています。また、がん患者の症状緩和、精神面のサポートを行う緩和ケアチームを多職種で構成し診療しています。緩和ケアの向上のため、院内外の緩和ケア勉強会、緩和ケア研修会を開催しています。今年の研修会は10月に開催を予定していますので、緩和ケアに興味のある方の御参加をお待ちしています。地域の診療施設と連携してがん患者の診療を行う地域連携クリニカルパスを運用し、地域連携医療施設と一緒にがん患者の診療をしていきたいと考えています。

これからも、質の高いがん診療を提供できる病院として、頑張っていきたいと思いますので、今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

連携室だより

地域連携室長 就任のご挨拶

院長代理 **加藤 文彦**

これまで小林建仁副院長と佐野隆久副院長が地域連携室長を勤めて参りましたが、今年度より私と藤田芳郎副院長が同職を務めさせていただきます。本邦は超高齢化社会を迎え、医療もその対応が求められています。当院は急性疾患と、慢性疾患の急性増悪に今までよりも更に特化して対応したいと思っております。このため、慢性疾患のコントロールや安定した患者さんの日常の加療につきましては、地域医療機関の方々のご協力を更に仰ぎたいと考えておりますので、宜しくお願い申し上げます。

地域連携室長 就任のご挨拶

副院長 **藤田 芳郎**

当院は地域に密着した総合研修病院として地域医療機関の皆様に育てられて参りました。常日頃の皆様方の温かいご支援のほど誠にありがとうございます。このたび加藤文彦院長代理とともに新たに地域連携室長を務めさせていただくことになりました。今後ますます地域医療に貢献し地域連携の要として各科の協力体制が整った病院として更なる発展を目指して努力する所存でございます。今までと同様の温かいご支援のほどをどうかよろしくお願い申し上げます。

医師交代

☆採用 (平成25年3月1日付)	落合 美奈 形成外科医師	佐野 隆久 副院長
菅 もも 産婦人科副部長	石田 衛 脳神経外科医師	尾関 雅靖 第二消化器内科部長
☆転入 (平成25年4月1日付)	古林 充里 眼科医師	臼井 幸治 心療内科医師
南木 道生 副院長	和田 伊織 眼科医師	小川 義和 整形外科医師
河村 孝彦 副院長	岡崎 由利子 耳鼻咽喉科医師	松本 太郎 整形外科医師
☆採用 (平成25年4月1日付)	神山 潤二 呼吸器内科医師	中島 拓人 形成外科医師
宿輪 和孝 消化器内科副部長	村井 由香里 腎臓内科医師	深見 祐樹 神経内科医師
長坂 暢 病理科副部長	湊口 俊 腎臓内科医師	山下 範子 皮膚科医師
都田 淳 心療内科医師	高橋 愛 麻酔科医師	松下 明弘 呼吸器内科医師
金原 香織 外科医師	白 晋 麻酔科医師	北川 勝英 循環器内科医師
小池 佳勇 外科医師	☆採用 (平成25年5月13日付)	今泉 貴広 腎臓内科医師
木下 晋 整形外科医師	寄川 麻世 産婦人科医師	中岡 和徳 消化器内科医師
井上 太郎 整形外科医師	☆退職 (平成25年3月31日付)	深見 礼美 麻酔科医師
大内田 隼 整形外科医師	小林 建仁 副院長	
富田 桂介 整形外科医師	正木 道熹 副院長	

当院の理念

皆さんとの出会いを大切にし、苦しみを分かち合い、健康で潤いある生活を送れるよう職員一同努めます。

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

☎地域医療連携室 (平日 8:15~19:30) 室長: 加藤 文彦 (院長代理)
052-652-5950 (TEL) 藤田 芳郎 (副院長)
052-652-5716 (FAX) 事務担当: 今関 信夫・内藤 遵子・金井 久実